

ル條約

署名 一九〇七年一月八日 (一七)
効力発生 一九〇一年一月六日
日本國 一九二一年一月六日
(一九二一年二月六日批准、二月十三日批准、二月二十三日公布、條約一號)

當事國 四一

独逸皇帝普魯西國皇帝陛下以下締約國元首名略ハ、戰時ニ於テ海際海上關係ニ對スル法ノ衡平ナル適用ヲ過去ニ於ケルヨリモ一層確保スルノ必要ヲ認メ、右ノ目的ヲ達スルニハ、區別ニ出テタル從來ノ或種ノ慣行ノ共通利益ノ為ニ拋棄シ又ハ調和シテ平和的商業及無害の作業ニ對シテ与ヘキ保障並海上ニ於ケル敵對行為ニ関シテ共通ノ規則ノ制定ヲ企ツルノ適當ナルコト、及今日迄論争ノ為ニ不定ノ状態ニ置カレ又ハ諸國政府ノ專斷ニ委テラレタル原則ヲ書面ヲ以テスル相互的約定ニ由リ確定スルノ必要ナルコト、及現行法ニ抵触スルコトナクシテ其ノ規定セザル事項ニ関シ今日既ニ若干ノ規則ヲ設ケ得ルコトヲ認メ、各左ノ全權委員ヲ任命セリ。(全權委員名略)

第一章 郵便信書

第一条(郵便信書の不可侵)海上ニ於テ中立船又ハ敵船内ニ在ル中立者又ハ交戦者ノ郵便信書ハ、其ノ性質ノ公私ヲ問ハス、不可侵トス。船舶ヲ拿捕アルタルトキハ、右信書ハ、捕獲者ニ於テ為シ得ル限速ニ之ヲ発送スルベシ。前項ノ規定ハ、封鎖違反ノ場合ニ於テ、封鎖港ヨリ來タル信書ニ之ヲ適用セズ。

第二条(中立郵便船の除外)郵便信書ノ不可侵ハ、之ヲ為テ中立郵

便船ニ對シ一般中立商船ニ関スル海戦ノ法規例ノ適用ヲ免除スルモノニ非ス。但シ、臨檢搜索ハ、成ルヘク寛大且迅速ニ必要アル場合ニ限之ヲ行フコト要ス。

第二章 或種ノ船ニ對スル捕獲免除

第三条(漁船)専ラ沿海漁業又、地方的小航海ニ用ザルル船舶ハ、其ノ漁獲具、船具及搭載物ト共ニ捕獲ヲ免除ス。

右免除ハ、該船カ如何ナル方法ニ依ルルヲ問ハス、敵對行為ニ加ルコト無ク、其ノ適用ナキモノトス。締約國ハ、前記ノ船ノ無害ナル性質ヲ利用シ、其ノ平和的外觀ヲ存シテ、之ヲ軍事上ノ目的ニ使用セザルベシ。

第四条(宗教上等の任務を帯びる船舶)宗教、學術又ハ博愛ノ任務ヲ帶アル船舶モ、亦捕獲ヲ免除セラルルモノトス。

第三章 交戦者ノ捕獲シタル敵商船ノ乗員ノ取扱

第五条(中立國民)交戦者カ敵商船ヲ捕獲シタル場合ニ於テハ、中立國民タル船員ハ、之ヲ俘虜ト為スコトヲ得ス。

中立國民タル船長及職員ニテ戰爭繼續中敵船ニ於テ勤務セザルコトヲ書面ヲ以テ正式ノ約束スル者亦同シ。

第六条(敵國民)敵國民タル船長、職員及船員ハ、戰爭繼續中作戰動作ニ關係ヲ有スル何等ノ勤務ニモ服セザルコトヲ書面ヲ以テ正式ニ誓約シタルトキハ、之ヲ俘虜ト為スコトヲ得ス。

第七条(氏名の通告)捕獲シタル交戦者ハ、第五条第二項及第六条ニ掲ケタル條件ヲ以テ俘虜ト為サリシ者ノ氏名ヲ他方ノ交戦者ニ通告セシ。後者ハ、故意ニ前記ノ者ヲ使用スルコトヲ得ス。

第八条(除外船舶)前三条ノ規定ハ、敵對行為ニ加リタル船舶ニ之ヲ適用セザルモノトス。

第四章 附則

第九條(總加入事項)本條約ノ規定ハ、交戦國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限、締約國間ニ之ヲ適用ス。

第一〇條(批准)本條約ハ、成ルヘク迅速ニ批准スヘシ。批准書ハ、海牙ニ寄託ス。

第一一回(批准書寄託ハ、之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル證書ヲ以テ之ヲ証ス。爾後ハ批准書寄託ハ、和蘭國政府ニ宛テ、且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ為ス。

第一回(批准書寄託ハ、和蘭國政府ヨリ、外交上ノ手續ヲ以テ、直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ。前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ、和蘭國政府ハ、同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス。

第一二條(非加盟國)記名國ニ非サル諸國ハ、本條約ニ加盟スルコトヲ得。

加盟セムト欲スル國ハ、書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ、且加盟書ヲ送付シ、之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託ヘシ。和蘭國政府ハ、直ニ通告書及加盟書ノ認証牒本ヲ爾余ノ諸國ニ送付シ、且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ。

第一二條(効力)本條約ハ、第一回(批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ、其ノ寄託ノ日ヨリ六十日後、又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ、和蘭國政府カ右批約文又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタル日ヨリ六十日後ニ其ノ効力ヲ生スルモノトス。

第一三條(廢棄)締約國ニ本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ、書面ヲ以テ其ノ官和蘭國政府ニ通告スヘシ。和蘭國政府ハ、直ニ通告書ノ認証牒本ヲ爾余ノ諸國ニ送付シ、且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ。

第一四條(寄託の機嫌)和蘭國外務省ハ、帳簿ヲ備ヘ置キ、第十四條第三項及第四項ニ依リ為シタル批准書寄託ノ日並加盟(第十四條第二項)又ハ廢棄(第十三條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス。

右証據トシテ、各全權委員本條約ノ署名ス。(全權委員署名名略)

